

(2) 3/11 ART THEATER PRODUCTION 第一回自主上映会

「私達が映画だ!。」 3/11(月) 戦災復興記念館4F

「私達が映画だ!。」が、この上映会のタイトル。気合い入ってますね。菅原マコト、大沼英寿、大平雅士、そして小田中卓也という4大監督(?)による第一回目の合同上映会。テーマは「男と女」。全体的な印象として、菅原監督と大沼監督の作品はオシャレに動けるようです。菅原監督は仏語に堪能なようで、字幕は全部French!。大沼監督作品はタイトルが上映会のテーマと同じ「男と女」。こってりしたラグーンが見ものです。大平監督の「L'etere〜存在〜」は、目からウロコが落ちるような作品といえます。小田中監督作品は、とってPUNKY!アブノーマル&/バイオレンスを日常のタッチで描いています。

休憩時には、生演奏のアトラクションもあり、やや元気のいい演奏でしたが、面白い試みだったと思います。第二回目はどんな作品が集まるのか楽しみです。

文責/遠藤



(3) 3/21 ↓ 仙台高校映画部 自主制作映画 上映会

若いなあ、それが第一印象。編集も限有り、でも「若いなあ」というのは悪い意味ではないんです。初々しいというのか、むしろ自分達の方がスレてきているなあ、なんて反省させられました。上映5本中、3本が「男女交際もの」。そこには人生の苦悶や肉欲なんかはないんです。レモンのように爽やかな交際が展開していきます。私が特に気に入ったのは「梅雨の終わりに」という作品。なかなか余韻の残る作品です。技術的な面で面白かったのは同時録音しているという事。なぜか大学の8mm作品では少ないんですよ。どの作品にも共通しているのは仲間が集まって作り上げた、という印象です。これって個人的にとってもジーンとくるんですよ。テヘヘヘ。8mmという学生の作品が多いんですが、高校生の若さも貴重だと思います。ヘタでもいい。クサクでもいい。オジさんはキミらのエキスがほしいんだ!

文責/遠藤



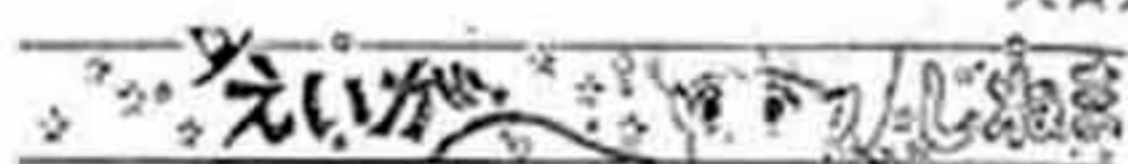
(4) 3/25 仙台インディーズムービーセレクション1

古い話になりますが、シネサラダ上映会「仙台インディーズムービーセレクション1」が、まる3月26日(日)プラザセントラルビル4Fホールにて開催されたわけです。前半(遠い昔のよう)で予備した通り、市内で実際に制作された作品のうち、人気のある作品をピックアップし、上映。東北大以外、宮大2009、学院大工学部映画、学院大映画部、四つ巴の薙(?)が繰り出される中、やはりめだったのは、ミニチュア、特殊効果、CGFの「PIT OUT」、豪華な演出が光る工学部「GOO118」、軽妙なギャグの流れるZOOZY「車輪を回せ」、ぴあ人選はだてじゃない やっばり深い学院大小田中監督の「ドクトル結城の恋装」、まさかの出来ばえ「仮面ライダーファントム」といったところでしょうか。

伝説の著作、CGFの「RESON COLOR DREAM」、工学部の戦争アクション「DEATH SOAD」も文芸全11本、合計約5時間近くにとり込んでみてもいい上映メニューを消化したわけですが、息つく暇もなく鑑賞 会と相成ったわけです。

出品監督をメインに、「映画を作る」事について熱い技術が披露されたのですが、いまひとつ話に広がりがあったのが残念な気がします。しかし、こんなに沢山の映画に関わる人が集まったのは初めてでもあり、各監督の貴重な意見が聞かれました。これから何かを作ろうという人にはかなり参考になったんじゃないでしょうか。入場者は約80人・・・ちょっと少ないような気もしますが、充実した上映会だったように思いました。(事前録音ですわ。)協力してくれたスタッフの皆さん、本当に有難うございました。

文責/岸浪



シネサラダスタッフ募集のお知らせ

シネサラダでは、スタッフを募集しています。えーと・・・活動のあらまはというと、1/自主映画の情報紙の発行、2/上映会のプロデュース及、運営、実行。3/自主映画の制作(実はこれがめだまだたりする)以上です。こういうもの(ってなんだ?)に興味のある方、映画に出てみたい、作ってみたい人、その他質問などありましたら、岸浪にお問合せください(PM10時以降。あくすけのじゆうしよあてのてかみでもけっこうです)。少ない(実質3人)スタッフでやっているの、えー、よろしくおねがいします。



(5) キネマジウム ファンタジカ アニメーション映画祭 + 展示 + トーク

深夜に突然のTRISH、「文化事業団の者ですが、」「はあ?」というわけで、4/18~22の5日間、青年文化センター・エッグホールで「キネマジウム・ファンタジカ」と題されたアニメーション映画祭が行われました。この催しはチェコスロバキアの人形アニメを中心に鈴虫映画会やクマガイコウキ氏の自主製作映画も交えた統合的な映像イベントでありました。

別会場のAVルームにおいては「自主製作フィルム祭」というタイトルで、在学映画部の作品を上映するという催しもありました。さらにコマ撮りアニメーション、「OGE.L」、鈴虫映画会の新作16mm映画「REINS」、クマガイコウキ氏ビデオ作品「彼女の相談」なども上映しました。

「OGE.L」は閃光フィルムに収めての上映で、興奮になった方もいると思いますが、鈴虫映画会の「REINS」が良かった。人形アニメーション作品でなんとフィルムの最終回まで上映当日の朝で速攻で編集を行い、BGMは生ところがこれがとても印象に残りました。もう一度みたい作品です。



「彼女の相談」はフットワークの軽い感じでまとめてありましたが見た後妙な感じが残る作品でした。人形アニメあり、自主製作映画あり、美術品の展示ありとバラエティに富んだイベントでした。

文責/岸浪

(6) CineCC 映像パノラマパーティー

8ミリ映像祭90 来る4月29日~5月6日におこなわれたCineCCの上映会を、「仮面ライダーファントム」の監督・志子田君にレポートしていただきました。さて、そういった中で、

私は5月30日に東京は池袋に行ってきましたのである。昔さんは「シネック」なるものを御存知だろうか?。正式には「学生映像連盟Cinecc」といって全国の8mm映画を作っている人達で構成されている組織でね、毎年G、Wに上映会をやるわけよ。

これが一次大会で今年は約130本出品されたそうだ。秋にはさらに10本に上ばられて11月にはグランプリ作品が選ばれてるって段取りなのさ。今年で第11回目になるらしくて知る人ぞ知るって組織だ。会場は今年からやけにグレードアップして池袋西武のスタジオ200でやったんだけど、どうしても自主製作映画上映会っていうものは関係者が用もないのに入口にたむろしちゃうんで困ったんだ。かなり立派なところなんだけど何か雰囲気閉鎖的に感じたわ。作品がおかつても拍手があるわけでもなし、どこかよそよそしいんだわ。まあ、唯一の救いは司会の段取りがスムーズな事だわ。

実はこれがとって大事なことで、身内の作品以外は冷めている雰囲気司会がフォローするんだけど、これがあるとないとは流行のノリが全然違うわけよ。で問題の作品だけどやっば世の中広いよ。みんな一人一人作風が違って(当り前)十人十色。8mmという死にゆくメディアでありながら、そこにビデオでもない、演劇でもない、写真でもない、「何か」を求めて作った「熱い思い」が感じられるわけよ。やっば見るだけじゃつまらないわ。俺もまた、やろうって気持ちになったよ。以上。

で、全130本の中から、何本か目についたものを紹介してみよう・・・

<p>「さわやか〜バイク映画」</p> <p>監督●藤原竜雄</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 8mm-1000 2. 139 3. 200 4. 22100 2C1000 2700 5. 1000 85.11.19 6. 1000 7. 2000 8. 1000 9. 1000 10. 1000 	<p>「仮面ライダーファントム」</p> <p>監督●志子田人</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 8mm-1000 2. 200 3. 200 4. 2C1000 5. 2000 6. 1000 7. 1000 8. 1000 9. 1000 10. 1000
--	---